

PENTAX

製造販売業者

HOYA Technosurgical 株式会社

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-28-4 YKBエンサインビル
TEL 03-5369-1710 FAX 03-5369-1711

■札幌オフィス 〒060-0007 札幌市中央区北七条西13-9-1 TEL:011-241-3473 FAX:011-241-3472
■仙台オフィス 〒981-3133 仙台市泉区泉中央1-7-1 TEL:022-371-6944 FAX:022-371-8924
■名古屋オフィス 〒461-0001 名古屋市中区泉1-21-27 TEL:052-955-8572 FAX:052-955-8573
■大阪オフィス 〒542-0081 大阪市中央区南船場1-17-9 TEL:06-6263-1679 FAX:06-6263-1686
■福岡オフィス 〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3-8 TEL:092-281-6860 FAX:092-281-6869

URL www.hoyatechnosurgical.co.jp

※仕様、形状は一部変更することもあります。
※掲載の写真・形状図は実物大ではありません。

ご注文先

益子工場

〒321-4292 栃木県芳賀郡益子町大字塙858
TEL 0285-72-6253 FAX 0285-72-6259

医療機器承認番号 20100BZZ00259000

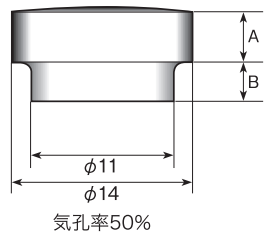
販売店

AP100903
2015年2月作成

バーホール充填スぺーサー

略称:人工骨AB-10

テスター



気孔率50%

サイズバリエーション

(単位寸法:mm)

品番	高さA	高さB
C5-023-AA-089-H5SS	2	3
C5-023-AA-086-H6S	3	3
C5-023-AA-087-H7M	4	3
C5-023-AA-088-H8L	5	3
C5-006-AA-164-H10LL	7.5	2

開発コンセプト

開発元:谷川先生



CLINICAL DATA

CT画像は周囲の自家骨とほとんど分らない状態です

開発者 谷川先生コメント

吸収性プレート・スクリューによる骨弁固定を行った際に、ハイドロキシアパタイト製のバーホールボタンを選択することで、生体親和性に優れた材料での頭蓋形成術が可能となります。またArtifactもないため術後のフォローアップにも効果的です。はめ込み後、ダイヤモンドドリルなどでのトリミングが可能な高気孔率ハイドロキシアパタイト製であるため、骨弁との段差をなくことができ、審美的にも有用です。

PENTAX

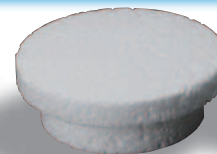
PENTAX

医療用品4. 整形用品 人工骨インプラント
高度管理医療機器

APACERAM®

バーホール充填スぺーサー

開発元:網走脳神経外科リハビリテーション病院 院長 谷川 緑野 先生



アパセラム(滅菌済み)

【禁忌・禁止】

- (使用方法)
- ・再使用禁止
- (禁忌症)
- ・次の疾患がある患者には使用しないこと
- (1) 血液疾患(白血病、血友病、敗血症等)
- (2) 重症肝機能障害
- (3) 重症心腎疾患
- (4) 再発の危険性がある感染性疾患
- (5) 長期にわたるステロイド剤、抗血液凝固剤等の使用症例
- (6) その他担当医師が不適当と認めた症例(骨軟化症等の骨疾患、その他)

詳細は製品添付文書をご参照ください。

バーホール充填スパーサーは使いやすく機能性に優れています。

- 高気孔率のハイドロキシアパタイト製バーホールボタンです。
- 生体親和性が高く、骨癒合効果が期待できます。
- 高気孔率のためトリミングが可能で頭部の審美性を綺麗に再現できます。
- パーフォレーター*に合わせた形状のため、バーホールに隙間なく補填できます。

*パーフォレーターサイズは、上段Φ14mm/下段Φ11mmの標準型に限ります。

APACERAM®

手術手順

前頭側頭開頭

1

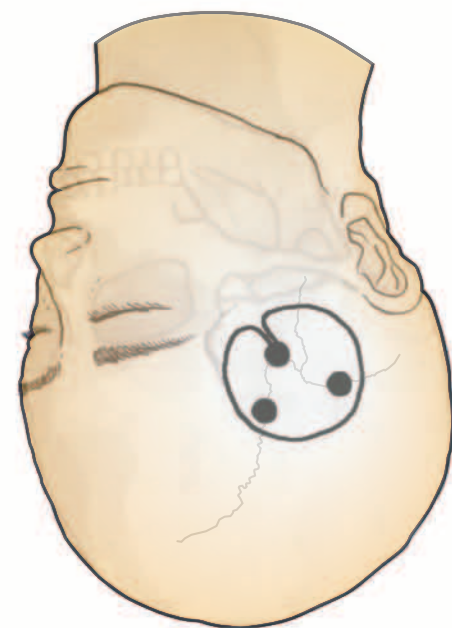
頭皮・筋肉切開

開頭は皮膚弁をtwo layerで形成します。
骨膜は骨切線と異なる線で切開し、有茎の状態で剥離して温存します。

2

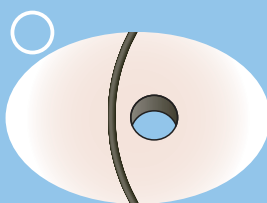
骨切り

キーホール、バーホールを開け、骨切りを行います。
骨切り線はバーホールの外側を通るように行い、バーホールを繋ぐ形での骨切りは行わないようにします。
こうすることでバーホールの形状を損なわず、アパセラムが綺麗にフィットします。

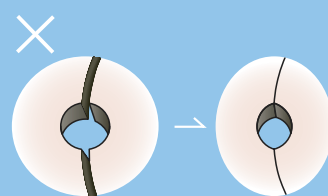


手術のポイント①

骨切り線がバーホールの外側にくるようにすることで、バーホールの形状を損なわず、アパセラムが綺麗にフィットします。



バーホール上に骨切り線がくると、バーホールの形状を損ないアパセラムがフィットしないことがあります。



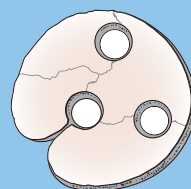
3

骨弁の除去

Sphenoid ridge(蝶型骨縁)を牙状に残し、骨片を一塊に取り外します。
必要に応じてSphenoid ridgeを削除し、前頭側頭開頭を完成させます。

手術のポイント②

キーホールをPterionにおき、そこを中心にSphenoid ridgeに沿ってハート型の骨切りを行うことで、Bone Lossを最小限にできます。



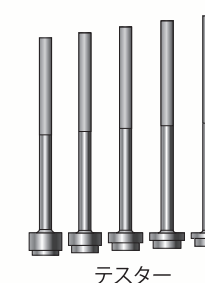
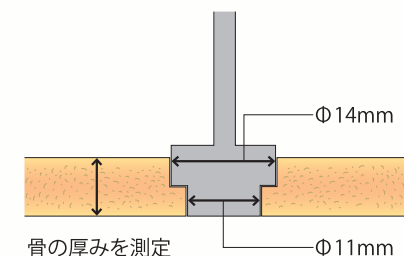
閉 頭

4

アパセラムの選択

テスターを用いてバーホール部の骨の厚さを測ります。
骨の厚みに近いアパセラムを選択することで、トリミング時間を最小限に抑え、手術時間のロスを少なくします。

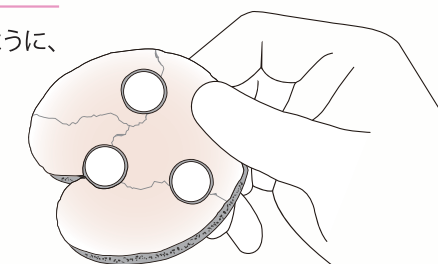
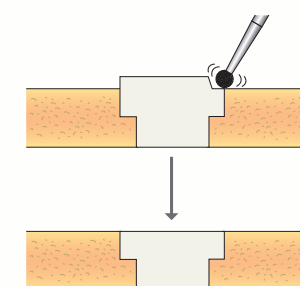
※ご注意 パーフォレーターの切り口形状は、上段Φ14mm/下段Φ11mmの標準型に限ります。



5

アパセラムの加工

アパセラムをバーホールにはめ込み、自家骨片と面あわせになるように、ダイヤモンドバーなどでトリミングします。



アパセラムを補填した自家骨片

6

閉頭

骨弁と母床骨との固定には、吸収性プレート・スクリューを使用して、チタン系医療材料を使用せずに固定し、閉頭して手術を終了します。

